

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成21年2月5日(2009.2.5)

【公表番号】特表2008-545876(P2008-545876A)
 【公表日】平成20年12月18日(2008.12.18)
 【年通号数】公開・登録公報2008-050
 【出願番号】特願2008-516139(P2008-516139)
 【国際特許分類】

C 0 9 J 7/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 7/02 Z

G 0 2 F 1/1335 5 2 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年12月1日(2008.12.1)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

別の問題点は層厚である。即ち、二つの層が最初にそれぞれダイにおいて形成されそしてそれ故に比較的厚い支持体層しかもたらされず、その結果フィルムが比較的厚く、かつ、柔軟性がなくそしてそれ故に接合するべき面にかろうじてしか適合しない。更に、黒色層も同様に比較的厚くしなければならない。さもないと完全な吸収が実現できないのからである。別の欠点は、黒色層の機械的性質は本来の支持体材料(例えば純粋のPET)の機械的性質と異なるので、支持体材料の変化してしまった機械的性質にある。支持体材料の二層型の別の欠点は同時押出成形された支持体材料への接着剤の繋留性に相違があることである。この実施態様の場合には、両面粘着テープに弱点が存在する。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

例えば灰色の着色粒子を接着剤に混入するか又は支持体側に灰色に塗装するのが最も簡単な方法である。しかしながらこれらの方法は比較的費用が掛かりそして、適当な着色粒子組成物によって正しい陰影に合わせる事が困難であるので不便でもある。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

更にこのフィルムは明るく、特に白色に着色する着色顔料又は明るく、特に白く着色する粒子を含有している。当業者に熟知されるあらゆる明るく或いは白色に着色する顔料又は粒子が適している。例えば容易に入手し得る二酸化チタン又は白色に着色しうるための硫酸バリウム粉末がある。顔料及び粒子は、支持体フィルムの最終層厚よりも直径が小さ

くあるべきである。白色着色度は、フィルムの層厚及び透過率によって制御される。白色フィルムの光透過率はこの面を後で灰色着色をもたらすために、好ましくは最小5%～最大70%であるべきである。更に白色着色粒子の充填度はフィルムの化学組成及び全層厚に左右される。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

プライマー層(b)：

プライマー層(b)は色々な機能を満足することができる。本発明の一つの実施態様においては、プライマー層は外部光を実質的に完全に吸収する機能を有し、対峙する側に灰色色調をもたらすための陰影を生じさせそして支持体材料に粘着剤を繋留するのを向上させる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

更に場合によっては可塑剤、別の充填剤(例えば繊維、カーボンブラック、酸化亜鉛、チオク、中実又は中空ガラスビーズ、他の材料の微小球状物、珪酸、珪酸塩)、核形成剤、導電性材料、例えば共役ポリマー、ドーブ共役ポリマー、金属顔料、金属粒子、金属塩、グラファイト等、発泡剤、配合剤及び/又は老化防止剤、例えば第一及び第二酸化防止剤の形又は光安定剤の形のものを使用することができる。しかし、これらの添加物は灰色側での反射に影響するべきでない。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0088

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0088】

特に有利な一つの実施態様においては層(d)及び(c)或いは(c')が同じ粘着剤マトリックスを有している。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0089

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0089】

理想的な粘着剤マトリックスの別の長所は、染料又は色素体粒子が接着剤層(c)或いは(c')に移動する傾向を減少させることにある。色素体粒子が例えば極性が異なるためにマトリックス中に良好に溶解されておりそして接着剤層(c)或いは(c')に移動する危険がないことである。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0096

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 9 6 】

ポリ(メタ)アクリレート接着剤を製造するために慣用のラジカル重合を有利に実施する。ラジカル的に進行する重合のためには、重合用の別のラジカル開始剤を追加的に含有する開始剤系、特に熱分解するラジカル形成性アゾ又はペルオキシ開始剤を含有する。原則としてアクリレートについて当業者に熟知される通例のあらゆる開始剤が適している。

C - 中心のラジカル生成はHouben Weyl, "Methoden der Organischen Chemie (有機化学方法)", Vol. E 19a, 第60 - 147頁に記載されている。この方法も同様に有利に使用される。ラジカル源の例には過酸化物、ヒドロキシペルオキシド及びアゾ化合物があり、ここに挙げるがこれらに限定されない。代表的なラジカル開始剤の幾つかの例にはペルオキシ二硫酸カリウム、ジベンゾイルペルオキシド、クモールヒドロペルオキシド、シクロヘキサノンペルオキシド、ジ第三ブチルペルオキシド、アゾジイソ酸ブチロニトリル、シクロヘキシルスルホニルアセチルペルオキシド、ジイソプロピルペルカルボナート、第三ブチルペルオクトエート、ベンズピナコールがある。非常に有利な一つの実施態様においては、ラジカル開始剤として1, 1' - アゾ - ビス - (シクロヘキサニカルボン酸ニトリル) (DuPont社のVazo 88TM) 又はアゾイソブチロニトリル (AIBN) が使用される。

【 誤 訳 訂 正 9 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0097

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 9 7 】

ラジカル重合で生じる粘着剤の平均分子量(重量平均) M_w は、200,000 ~ 4,000,000 g/molの範囲内にあるように選択するのが非常に有利である。特に弾性を有する電導性ホットメルト型粘着剤として別に使用するために、400,000 ~ 1,400,000 g/molの平均分子量 M_w を有する粘着剤を製造する。平均分子量の測定はサイズ排除クロマトグラフィー(GPC)又はマトリックス支援レーザー脱離イオン+質量分析(MALDI-MS)によって測定する。

【 誤 訳 訂 正 1 0 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0107

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 1 0 7 】

で表される制御剤を使用するのが特に有利である。ただし式中、R及びR¹は互いに無関係に選択されるか又は同じであり：

- 分岐した又は直鎖状のC₁ ~ C₁₈ - アルキル基、C₃ ~ C₁₈ - アルケニル基、C₃ ~ C₁₈ - アルキニル基である；
- C₁ ~ C₁₈ - アルコキシ基である；
- 少なくとも1つのOH - 基又はハロゲン原子又はシリルエーテル置換されたC₁ ~ C₁₈ - アルキル基、C₃ ~ C₁₈ - アルケニル基、C₃ ~ C₁₈ - アルキニル基である；
- 少なくとも1つの酸素原子及び/又はNR^{*}基を炭素鎖中に有するC₂ ~ C₁₈ - ヘテロ - アルキル基であり、その際にR^{*}、は任意(特に有機)残基でもよい；
- 少なくとも1つのエステル基、アミン基、カルボナート基、シアノ基、イソシアノ基及び/又はエポキシ基及び/又は硫黄で置換されたC₁ ~ C₁₈ - アルキル基、C₃ ~ C₁₈ - アルケニル基、C₃ ~ C₁₈ - アルキニル基である；
- C₃ ~ C₁₈ - シクロアルキル基である；
- C₆ ~ C₁₈ - アリール又はベンジル基である；
- 水素

である。

【誤訳訂正 1 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 0 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 0 8】

タイプ (I) の制御剤はこれらに制限されないが以下の化合物であるのが有利である : この場合、ハロゲン原子は F、Cl、Br 又は I、特に Cl 及び Br であるのが特に有利である。直鎖並びに分岐鎖を含めた種々の置換基中のアルキル、アルケニル及びアルキニル基が適している。炭素原子数 1 ~ 18 のアルキル基の例にはメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、第三ブチル、ペンチル、2 - ペンチル、ヘキシル、ヘプチル、オクチル、2 - エチルヘキシル、第三オクチル、ノニル、デシル、ウンデシル、トリデシル、テトラデシル、ヘキサデシル及びオクタデシルがある。

【誤訳訂正 1 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 3】

式中、R³、R⁴、R⁵、R⁶、R⁷、R⁸、R⁹、R¹⁰ は互いに無関係に以下の化合物又は原子を意味する :

i) ハロゲン、例えば塩素、臭素又は沃素 :

i i) 飽和、不飽和又は芳香族でもよい炭素原子数 1 ~ 20 の直鎖状、分岐状、環状及びヘテロ環式炭化水素

i i i) エステル (-COOR¹¹)、アルコキシ (-OR¹²) 及び / 又は ホスホネート (-PO(OR¹³)₂)。ただし R¹¹、R¹² 又は R¹³ はグループ ii) の残基である。

【誤訳訂正 1 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 2 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 2 5】

以下種類の化合物を重合するための制御剤を使用して制御するのが有利である :

- ・ 2, 2, 5, 5 - テトラメチル - 1 - ピロリジニルオキシ (PROXYL)、3 - カルバモイル - PROXYL、2, 2 - ジメチル - 4, 5 - シクロヘキシル - PROXYL、3 - オキソ - PROXYL、3 - ヒドロキシイミン - PROXYL、3 - アミノメチル - PROXYL、3 - メトキシ - PROXYL、3 - 第三ブチル - PROXYL、3, 4 - ジ第三ブチル - PROXYL。
- ・ 2, 2, 6, 6 - テトラメチル - 1 - ピペリジニルオキシ (TEMPO)、4 - ベンゾイルオキシ - TEMPO、4 - メトキシ - TEMPO、4 - クロロ - TEMPO、4 - ヒドロキシ - TEMPO、4 - オキソ - TEMPO、4 - アミノ - TEMPO、2, 2, 6, 6 - テトラエチル - 1 - ピペリジニルオキシ、2, 2, 6 - トリメチル - 6 - エチル - 1 - ピペリジニルオキシ。
- ・ N - 第三ブチル - 1 - フェニル - 2 - メチル - プロピルニトロキシド、
- ・ N - 第三ブチル - 1 - (2 - ナフチル) - 2 - メチルプロピルニトロキシド、
- ・ N - 第三ブチル - 1 - ジエチル ホスホノ - 2, 2 - ジメチルプロピルニトロキシド、
- ・ N - 第三ブチル - 1 - ジベンジル ホスホノ - 2, 2 - ジメチルプロピルニトロキシド、
- ・ N - (1 - フェニル - 2 - メチルプロピル) - 1 - ジエチルホスホノ - 1 - メチルエチルニトロキシド、
- ・ ジ第三ブチルニトロキシド、
- ・ ジフェニルニトロキシド、

・ 第三ブチル - t - アミルニトロキシド。

【誤訳訂正 1 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 6】

更に本発明の対象は、本発明の両面粘着テープを LC - ディスプレーの接合又は製造に用いることでもある。粘着テープとしての用途のためには、1 枚又は 2 枚の剥離フィルム又は剥離紙で覆ってもよい。一つの有利な実施態様においてはシリコン処理された又は弗素化されたフィルム又は紙、例えばグラシン、例えばシリコン又は弗素化ポリマーをベースとする剥離層を更に有していてもよい H D P E 又は L D P E 被覆された紙を使用する。

【誤訳訂正 1 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 3 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 3 9】

試験方法：

A . 透過性：

透過性は、Biotek Kontron社のUvikon 923を用いて 1 9 0 ~ 9 0 0 n m の波長幅で測定した。この測定は 2 3 で実施する。絶対透過率は 5 5 0 n m での値として、完全に光が吸収された場合を基準として % で記載する (透過率 0 % = 光が透過していない ; 透過率 1 0 0 % = 光が完全に透過した) 。

B . 反射率：

反射試験は D I N 5 0 3 6 、 3 部 ; D I N 5 0 3 3 、 第 3 部 及 び D I N 5 0 3 3 、 第 4 部 に 従 っ て 実 施 す る 。 測 定 装 置 と し て は L M T タ イ プ の U l b r i c h t s c h e 球 (直 径 5 0 c m) を L M T タ イ プ の タ ウ - _ - メ ー タ ー の デ ジ タ ル デ ィ ス プ レ ー 装 置 と 組 み 合 わ せ て 使 用 し た 。 この 積 分 測 定 は 標 準 光 A 及 び V () - 適 合 S i - 光 要 素 に 相 応 す る 光 源 と し て 使 用 し 行 う 。 ガ ラ ス 製 対 照 サ ン プ ル に 比 較 し て 測 定 を 実 施 し た 。 反 射 率 は 直 射 光 反 射 率 と 散 乱 光 反 射 率 (%) の 合 計 と し て 記 録 す る 。

【誤訳訂正 1 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 1 4 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 1 4 0】

ポリマー 1：

ラジカル重合用の慣用の 2 0 0 L - 反応器に 2 4 0 0 g のアクリル酸、 6 4 k g の 2 - エチルヘキシルアクリレート、 6 . 4 k g の N - イソプロピルアクリルアミド 及び 5 3 . 3 k g のアセトン / イソプロパノール (9 5 : 5) を装填する。攪拌下に 4 5 分間の窒素ガス導入後に、反応器を 5 8 に加熱しそして 4 0 g の 2 , 2 ' - アゾイソ酪酸ニトリル (A I B N) を添加する。次いで外部加熱浴を 7 5 に加温しそして反応を一定のこの外部温度で実施する。1 時間の反応時間の後に再び 4 0 g の A I B N を添加する。5 時間後及び 1 0 時間後にそれぞれ 1 5 k g のアセトン / イソプロパノール (9 5 : 5) を用いて希釈する。6 時間及び 8 時間後にそれぞれ 1 0 0 g のジシクロヘキシルペルオキシジカルボナート (Akzo Nobel 社の Perkadox 16 ^(R)) をそれぞれ 8 0 0 g のアセトンに溶解して添加する。反応を 2 4 時間の反応時間の後に終了しそして室温に冷却する。